

第4章

9

多様で魅力ある奄美・離島の振興

施策体系

中項目	小項目
1 島々の魅力を生かした奄美・離島の振興	① 島々の暮らしを支える環境の整備
	② 島々の魅力を生かした地域づくり
	③ 島々の特性を生かした産業の振興
2 世界自然遺産の保全と持続的な観光の推進	① 世界自然遺産の保全と利用の両立
	② 地域の観光資源の活用及び創出等
	③ 観光客の来訪の促進等
3 離島の交通ネットワークの形成	① 離島航路・航空路の維持・充実
	② 離島の交通基盤の整備

関連のあるSDGsのゴール



1 島々の魅力を生かした奄美・離島の振興

》》》》 10年後の将来像

- 奄美・離島地域については、「屋久島」及び「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の2つの世界自然遺産を有する全国唯一の県として、その強みや多様な伝統・文化等の魅力を生かし、交流人口の拡大や産業振興、人と自然が共生する地域づくりが展開されています。
- 島々固有の文化や都会にはない豊かな自然、癒やしへの関心の高まりなどにより、交流人口や関係人口が拡大し、移住も進んでいます。

1 現状・課題

- 奄美・離島地域については、その多くが本土から遠隔地にあるという地理的条件、台風常襲地帯であるなどの厳しい自然条件下にあり、本土との間には、所得水準や物価をはじめとする経済面の諸格差が依然として存在し、本土と比べて著しい人口減少や少子高齢化の進行が見られます。
- 一方、奄美・離島地域は豊かな自然、澄み切った海、独自の伝統・文化など、多くの魅力にあふれています。
- 奄美大島及び徳之島は、国際的にも希少な固有種に代表される生物多様性保全上重要な地域であることが評価され、沖縄の2つの島とともに、2021年7月26日に世界自然遺産に登録されました。
- 奄美・離島地域は、地域社会で育児の助け合いが行われており、合計特殊出生率が全国でも高い水準となっています。
- 奄美・離島地域は、我が国の領海や排他的経済水域を適切に管理する上で重要な拠点であり、各地域の現状や課題を踏まえつつ、多様な島々の魅力を生かして、そこに住む人々が安心して暮らし続けられるように、各島の特性に合った地域づくり、産業の振興に積極的に取り組む必要があります。
- 奄美・離島地域においては、無医地区や無医島をはじめ、医療機関の利用が困難な地域が多く存在しています。また、地震・台風等の自然災害、大規模な事故等の発生時に迅速に医療を提供する体制を確保する必要があります。

2 施策の基本方向

① 島々の暮らしを支える環境の整備

- 保健医療供給体制や道路・港湾など、島々の住民生活の基盤整備を図ります。
- ICTを活用した遠隔医療の促進やへき地医療支援機構、へき地医療拠点病院、へき地

診療所の連携の強化、ドクターヘリの運航などにより、離島・へき地医療や救急医療の提供体制の充実を図ります。

- ICTを効果的に活用し、オンラインによる他校との交流学习や外部講師による授業を進めるなど、離島における学習環境の充実を図ります。
- 離島航路・航空路の運賃軽減に対する支援や、島内外を結ぶ航路・航空路の維持・充実などにより、住民の負担軽減や利便性の向上を図ります。
- 蓄電池を活用した地産地消型再生可能エネルギーの導入を推進し、エネルギーの自給率の向上、非常時のエネルギー確保及び雇用創出による地域活性化を図ります。
- 台風等荒天時の欠航・抜港による食料品や医薬品等の品薄対策について、関係機関や地元自治体と連携し、輸送手段の確保に努めるとともに、住民に対する事前備蓄の普及啓発を図ります。

② 島々の魅力を生かした地域づくり

- 豊かな自然や独自の伝統・文化などを全国に発信するほか、多様な離島の文化に触れる機会を創出するとともに、離島を訪れた観光客が集落等において、それらを体験できるような民泊などを推進し、交流人口の拡大を図ります。
- 離島における生活の魅力をPRすることにより、移住・交流の促進を図ります。
- 「屋久島」及び「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の2つの世界自然遺産を有する全国唯一の県として、ロードキルや盗掘・盗採の防止などの希少種保護対策、外来種対策、利用適正化等の取組を実施することで適正な保全・管理を図りながら、世界遺産としての価値を生かした持続可能な地域づくりを推進します。
- 奄美群島固有の自然と文化の魅力を生かした奄美群島をつなぐ「世界自然遺産奄美トレイル」などを通じ、奄美の環境文化への理解をより一層深めるとともに、世界遺産登録の効果の奄美群島全域への波及に努めます。

③ 島々の特性を生かした産業の振興

- 地域資源を活用した新商品の開発や販路開拓等を支援し、各島の特産品の新たな需要の開拓を図ります。
- 黒糖焼酎や大島紬の世界ブランド化に向けた取組等を支援し、各種メディアの活用やトップセールス、プロモーション活動の実施による国内外での認知度向上、販路開拓を図ります。
- 地域の観光資源の発掘や磨き上げに努め、自然や環境、サイクリング、健康・癒やしなどをテーマとするツーリズムや農山漁村の地域資源を生かした体験活動を提供するグリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズム、デジタル技術と観光資源の融合等による新たな観光コンテンツやサービスの創出などのスマートツーリズム^{※1}などの取組を促進します。また、恵まれた気候・観光資源・自然環境を生かしたスポーツ合宿・キャンプ等の誘致活動を推進し、スポーツを通じた交流人口の拡大や地域活性化を図ります。
- 島ならではの食や体験プログラムの開発や、エコツアーガイドも含めたそれらの担い手の育成・確保を行い、着地型観光^{※2}を促進します。

※1…スマートツーリズム：デジタル技術を活用し、これからの人々のニーズを満たすサービス提供により、地域への誘客拡大、滞在長期化や消費促進及びそれによる地域の各主体の持続的な価値獲得や創出を目指すツーリズム。

※2…着地型観光：旅行者を受け入れる側の地域（着地）側が、その地域でおすすめの観光資源をもとにした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する形態。

- 富裕層をはじめ外国人観光客の来訪を促進するための受入環境の整備を推進するとともに、鹿児島と屋久島、奄美群島を結ぶ世界遺産クルーズなど、国際クルーズ船の誘致を促進し、地域の活性化を図ります。
- 地理的制約を受けにくい情報通信関連産業や高付加価値型小型部品製造業などの産業振興及び企業立地の促進を図ります。
- 時間や場所にとらわれることなく働くことができるテレワークの普及啓発など、柔軟な働き方がしやすい環境整備を促進します。
- 農林水産物や観光資源等を生かした商品開発や販路開拓等の取組を促進し、雇用機会の拡充や地域経済の活性化を図ります。
- 島ごとにさとうきびや園芸作物、肉用牛を組み合わせた特徴ある複合経営を推進するため、畑地かんがい[※]施設等の農業生産基盤や農畜産物の生産・流通体制などの整備を支援します。
- 木材等の林産物を効率的に生産するため林道等の路網や、加工流通施設等の整備を促進するとともに、大名たけのこ等の特用林産物の生産体制や出荷体制を整備するなど地域特性を生かした産地づくりを支援します。
- 黒潮の恵みを受ける海域特性を生かした水産物の認知度向上・消費拡大や資源管理型漁業の推進、新規就業者や後継者の育成・確保を図るとともに、浮魚礁などの漁場整備や漁港施設の整備による効率的な生産・流通体制の強化を推進します。
- 本土に比べ割高となっている農林水産物の輸送コストに対する支援を行い、生産基盤の強化を促進します。



薩摩川内市（甕島・長目の浜）



喜界町（スギラビーチ）



徳之島町（ソテツトンネル）



知名町（田皆岬）

Topic | 多様で魅力あふれる奄美・離島 ～鹿児島県は全国有数の離島県～

鹿児島県は、全国でも有数の離島県で、有人離島数(人が住んでいる離島数)が28(2020年国勢調査ベース)もあり、「離島面積」及び「離島人口」が日本一です。

温帯から亜熱帯に渡る南北600kmの広大な県域に広がる島々は、世界自然遺産の屋久島や奄美大島、徳之島をはじめとする温暖で豊かな自然環境、ユネスコの無形文化遺産に登録された「来訪神・仮面・仮装の神々」、本場大島紬などの個性的な伝統文化、特色ある郷土料理など、個性あふれる島々ばかりです。

離島面積

第1位

鹿児島県 約2,474km²

第2位 長崎県 約1,551km²

第3位 沖縄県 約1,010km²

※2015年国勢調査ベース、沖縄県については、本島を除く

離島人口

第1位

鹿児島県 159,486人

第2位 沖縄県 125,940人

第3位 長崎県 124,462人

※2015年国勢調査ベース、沖縄県については、本島を除く

ユネスコの世界自然遺産・無形文化遺産

●世界自然遺産

- ・屋久島(1993年登録)
- ・奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島(2021年登録)

●無形文化遺産

- ・来訪神・仮面・仮装の神々(2018年登録)
- (甌島のトシドン、硫黄島のメンドン、悪石島のボゼなど)



鹿島断崖(甌島)



硫黄島ジオサイト(硫黄島)



ボゼ(悪石島)

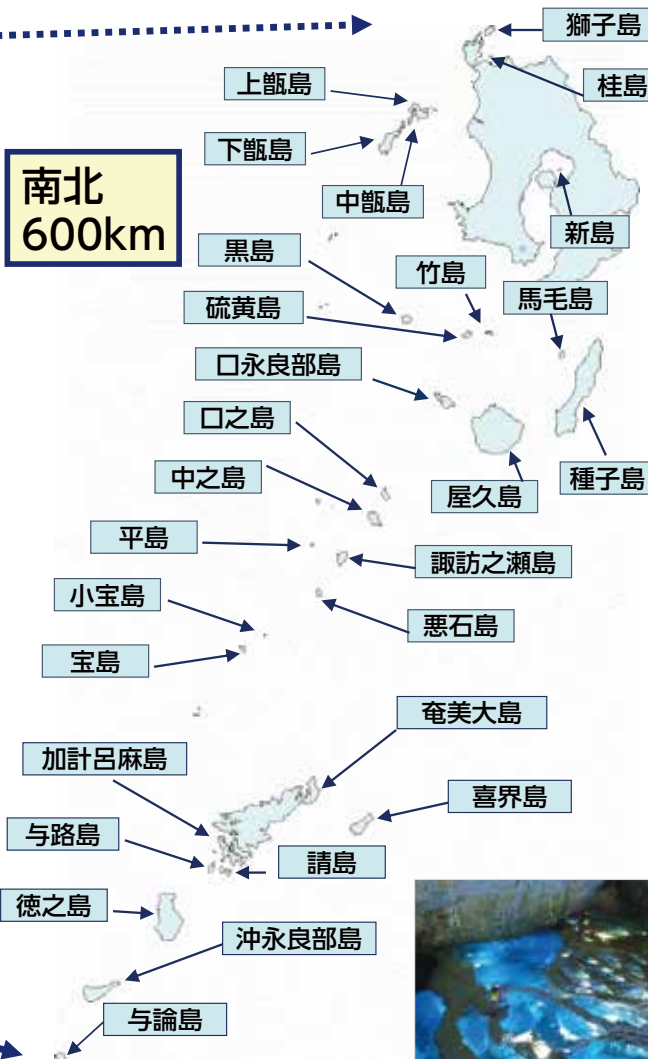


闘牛(徳之島)



百合ヶ浜(与論島)

南北
600km



化石モニュメント(獅子島)



種子島宇宙センター(種子島)



白谷雲水峡(屋久島)



本場奄美大島紬(奄美大島)



銀水洞(沖永良部島)



オオゴマダラ(喜界島)

2 世界自然遺産の保全と持続的な観光の推進

》》》》 10年後の将来像

- 世界自然遺産に登録されたすばらしい自然や人間と自然との関わりである環境文化が息づく屋久島、奄美大島、徳之島の遺産としての価値の維持、適正な保全・管理を図りながら、屋久島、奄美群島全体での持続可能な地域づくりが推進されています。

1 現状・課題

- 本県は、長年にわたり作りあげられてきた人間と自然との関わりである環境文化が息づく世界自然遺産の屋久島、奄美大島、徳之島をはじめ、自然環境に恵まれた島々を有しており、観光や教育等への持続的な活用などにより、地域の活性化にも寄与することが期待されています。
- 外来の動植物や野生化したペットなどが分布域を広げるなど、在来種の生息環境が脅かされています。

2 施策の基本方向

① 世界自然遺産の保全と利用の両立

- 「屋久島」及び「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の2つの世界自然遺産を有する全国唯一の県として、ロードキルや盗掘・盗採の防止などの希少種保護対策、外来種対策、利用適正化等の取組を実施することで適正な保全・管理を図りながら、世界遺産としての価値を生かした持続可能な地域づくりを推進します。
- 屋久島の自然、歴史、文化、産業などの素材を生かした環境学習や地元の語り部による「里めぐり」など、屋久島の環境文化への理解をより一層深める取組を推進します。
- 奄美群島固有の自然と文化の魅力を生かした奄美群島をつなぐ「世界自然遺産奄美トレイル」などを通じ、奄美の環境文化への理解をより一層深めるとともに、世界遺産登録の効果の奄美群島全域への波及に努めます。

② 地域の観光資源の活用及び創出等

- 地域の観光資源の魅力をつなぐ周遊型観光ルートの形成など、観光客の県内各地への周遊を促進します。

また、地域の観光資源の発掘や磨き上げに努め、自然や環境、サイクリング、健康・癒やしなどをテーマとするツーリズムや農山漁村の地域資源を生かした体験活動を提供するグリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズム、デジタル技術と観光資源の融合等による

新たな観光コンテンツやサービスの創出などのスマートツーリズムなどの取組を促進します。

③ 観光客の来訪の促進等

- 奄美の世界自然遺産登録を契機とした交流人口の拡大，群島全体への効果波及に向けて，事業者や地元自治体と連携したプロモーションやキャンペーンの展開，奄美トレイルの推進や世界遺産クルーズの誘致などによる周遊観光の促進を図ります。
- 事業者や地元自治体と連携して，新たなLCC就航やジェット機就航に取り組み，観光客の増大を図ります。
- 「屋久島」及び「奄美大島，徳之島，沖縄島北部及び西表島」の2つの世界自然遺産や，世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の県内の構成資産など，遺産としての価値を維持しながら，遺産を活用した観光地づくりを進め，世界遺産の保全と地域の発展につながる「ヘリテージツーリズム[※]」の構築に取り組みます。また，遺産の価値等について理解するためのガイド機能を持つ施設の整備等を通じた受入体制の充実を推進します。

屋久島



屋久島 大川の滝



屋久島 白谷雲水峡



屋久島 ヤクスギランド トレッキング

奄美大島・徳之島



奄美大島 金作原



奄美大島 マングローブ林



徳之島 犬田布岬

※ 1…ヘリテージツーリズム：世界遺産（文化遺産や自然遺産）等を観光資源として活用し，その収益が，遺産の保全や人材育成等にも役立つツーリズム。

Topic | 環境文化の継承

屋久島、奄美大島、徳之島をはじめとする本県の島々は、自然を畏敬し、自然と共生する文化（環境文化）に根ざした暮らしが色濃く残る地域であると言われています。

地域の気象条件に応じた作物の栽培や、自然の恵みを持続的に得ていくための知恵や技術、災害に遭いやすい場所・時期を避けて安全に暮らしていくための地域の言い伝えなどは、長い年月をかけ、人と自然の関わりにより成立し、長く地域社会の中で継承されてきました。

しかし、輸入した資源等に依存した産業活動やライフスタイルが広がるにつれ、環境文化の継承の必要性は低下し、次世代への継承がなされないままに失われつつあります。

環境文化が今日も息づいているのは鹿児島県の特色であり、魅力です。持続的に自然の恩恵を受け続けるための知恵と技術は、これからの新しい社会作りへのヒントと言えます。

また、将来において、万一、輸入資源等が得られなくなった場合に、再び必要となる可能性のあるものでもあります。こうした観点から、環境文化を記録し、後世に継承していくことが重要です。

環境文化の例

屋久島の岳参り

屋久島の各集落では、春と秋の彼岸の頃、奥岳への信仰登山が行われます。奥岳を神聖な場所として捉え、海の物を山に供え、山の靈気を里にもたらす行事であり、山、川、里、海のつながりを象徴しているとも考えられます。岳参りはかつて全国各地に存在していたようです。



奄美の神山(カミヤマ)

奄美大島の神山は、森を切ると崩落しやすい場所や、台風時に防風効果を発揮する場所であったことから、神聖な山として保全されてきたとの説もあります。今では大径木や希少種の残る場所ともなっています。



奄美の神道(カミミチ)

奄美群島には、海の彼方の理想郷から神がやってきて豊穡をもたらす海神信仰があります。集落の背後には神山と呼ばれる山があり、神様が通るとされる神道が存在します。自然を畏敬し、自然と共に暮らしてきた環境文化が残されています。



3 離島の交通ネットワークの形成

》》》》 10年後の将来像

- 港湾、空港の機能向上や道路等の整備が図られるとともに、地域の実情に合わせた航路・航空路等が維持・充実されるなど、島内・島外に繋がる陸・海・空の交通ネットワークが形成されています。

1 現状・課題

- 安全・確実に船舶が接岸できる港湾機能の向上や、道路と港湾の連携強化を図る必要があります。
- 観光や産業等の発展に寄与し、地域の活性化を図るため、空港の機能向上に努める必要があります。
- 奄美群島や特定有人国境離島地域においては、条件不利性の改善や交流人口拡大のため、航路・航空路運賃の軽減等に取り組み、航路・航空路網の維持・充実を図る必要があります。

2 施策の基本方向

① 離島航路・航空路の維持・充実

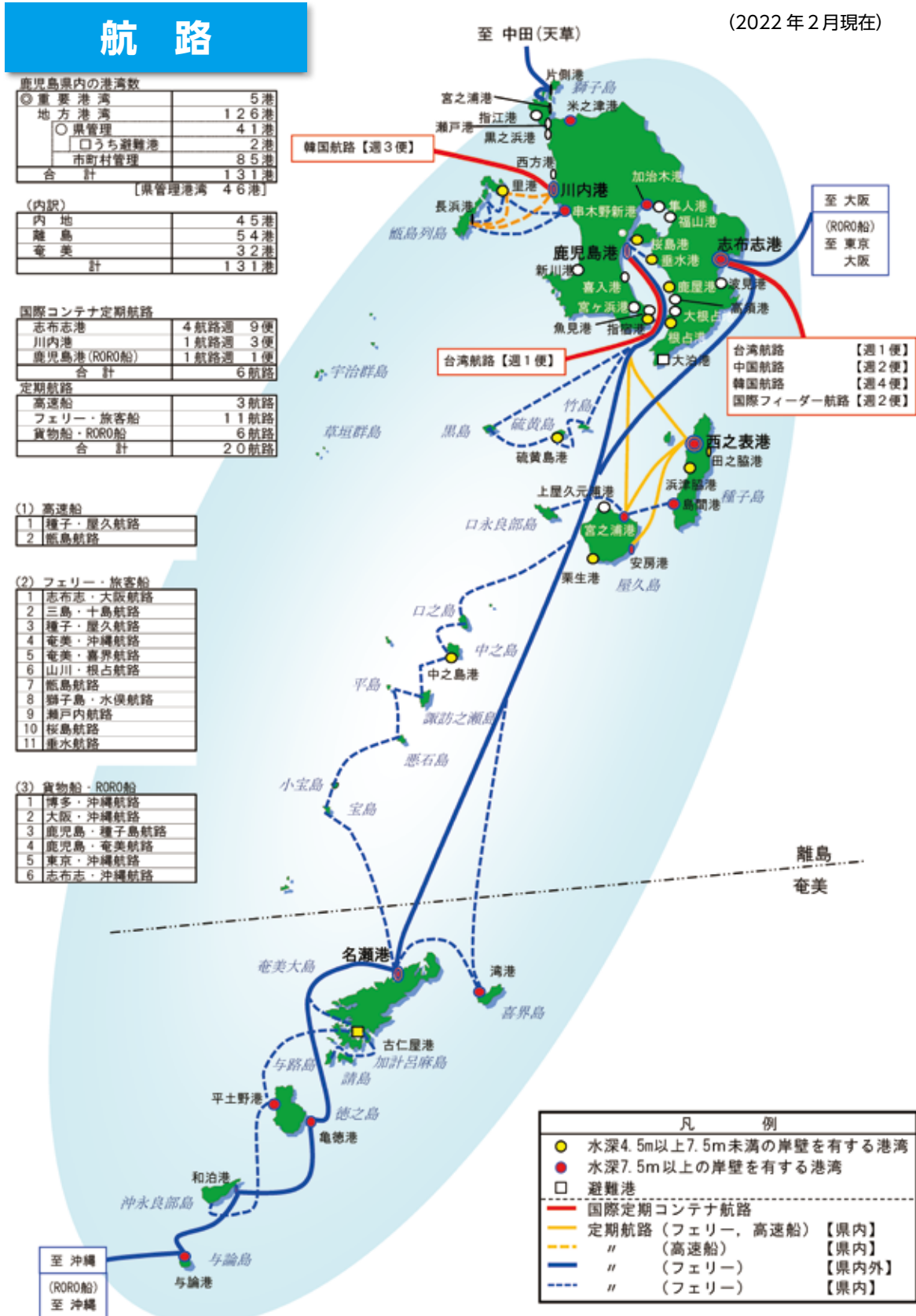
- 運航に対する支援や運賃軽減等に取り組み、離島航路・航空路の維持・充実を図ります。
- 島民の利便性向上や交流人口拡大のため、事業者や地元自治体と連携して、乗継便の改善や新たな航路・航空路の開設に向けて取り組みます。
- 事業者や地元自治体と連携して、世界自然遺産の屋久島と奄美を結ぶ航空路線の開設や、新たなLCC就航・ジェット機就航に取り組み、観光客の増大を図ります。

② 離島の交通基盤の整備

- 地域の拠点港である西之表港、名瀬港において、大規模自然災害発生時における緊急物資等の海上からの輸送ルートを確保するため、耐震強化岸壁等の整備を推進します。
また、島民の生活を支える生活航路における定期船の安定的な運航を図るため、亀徳港や与論港など離島港湾の整備を推進します。
- 富裕層をはじめ外国人観光客の来訪を促進するための受入環境の整備を推進するとともに、鹿児島と屋久島、奄美群島を結ぶ世界遺産クルーズなど、国際クルーズ船の誘致を促進し、地域の活性化を図ります。
- 離島空港については、住民生活の生命線であり、また、観光振興に寄与する重要なイン

フラであることから、滑走路端安全区域を整備するなど、航空機の安全運航を確保するとともに、空港の機能向上に努めます。

- 屋久島空港については、交流人口の拡大による地域経済の活性化のため、ジェット機が就航可能な空港整備に向けた取組を推進します。



資料：県土木部

航空路

(2022年1月1日現在)

※便数は新型コロナウイルス影響による運休・欠航を反映しない便数

鹿児島県内の空港数

◎ 拠点空港 (国管理)	1
鹿児島空港	
○ 地方管理空港 (県管理)	7
種子島空港	
屋久島空港	
奄美空港	
喜界空港	
徳之島空港	
沖永良部空港	
与論空港	
合計	8

鹿児島空港 (国管理)

至 東京(羽田)	【2 1便/日】
東京(成田)	【1 便/日】
富士山静岡	【1 便/日】
中部(セントレア)	【4 便/日】
大阪(伊丹)	【1 3便/日】
大阪(関西)	【3 便/日】
神戸	【1 便/日】
松山	【1 便/日】
福岡	【1 便/日】
沖縄(那覇)	【2 便/日】

鹿児島空港 (国管理)

至 ソウル	【週 7便】
上海	【週 2便】
台北	【週 5便】
香港	【週 1 2便】

県内空港の乗降客数実績 (国際線・国内線) (単位:千人)

空港名	年度	S50 (1975)	S60 (1985)	H7 (1995)	H17 (2005)	H30 (2018)	R01 (2019)	R02 (2020)
鹿児島空港		2,423	3,897	5,770	5,715	6,067	5,769	1,834
種子島空港		97	191	151	118	90	87	43
屋久島空港		28	89	112	176	174	149	94
奄美空港		376	357	638	605	891	885	447
喜界空港		36	53	74	80	89	87	48
徳之島空港		114	110	169	163	201	202	110
沖永良部空港		52	56	85	93	117	116	66
与論空港			78	81	68	80	75	38
計		3,126	4,831	7,080	7,018	7,709	7,370	2,680

※空港管理状況調書より



ERJ170型機 座席数76席



ATR42-600型機 座席数48席

離島
奄美



至 東京(羽田)	
東京(成田)	
大阪(伊丹)	
大阪(関西)	
福岡	
沖縄(那覇)	

凡 例
— 国際線
— 国内線

県管理空港の路線 (定期便)

路線名	便数/日	運航会社
種子島 鹿児島	4	JAC
屋久島 鹿児島	4	JAC
奄美 鹿児島	8	JAC, J-AIR
喜界 鹿児島	2	JAC
徳之島 鹿児島	4	J-AIR, JAC
沖永良部 鹿児島	3	JAC
与論 鹿児島	1	JAC
種子島 奄美	1	JAC
屋久島 奄美	1	JAC
喜界 奄美	3	JAC
徳之島 奄美	2	JAC
沖永良部 奄美	1	JAC
与論 奄美	1	JAC
種子島 徳之島	1	JAC
屋久島 徳之島	1	JAC
喜界 徳之島	1	JAC
徳之島 徳之島	1	JAC
沖永良部 徳之島	1	JAC
与論 徳之島	1	JAC
種子島 与論	1	RAC
屋久島 与論	1	JAC
奄美 与論	1	JAC



A320型機 座席数180席

資料：県土木部

施策体系

中項目	小項目
1 人づくり・地域づくりの強化	① 農林水産業を支える人材の確保・育成
	② 農山漁村の活性化
2 生産・加工体制の強化, 付加価値の向上	① 本県の特性を生かした農畜産業の生産体制づくり
	② 県産材の供給体制強化と特産林産物の産地づくり
	③ 持続的・安定的な漁業生産
	④ 6次産業化の推進
	⑤ ロボット技術, ICT等を活用したスマート農林水産業への挑戦
	⑥ 動植物の防疫対策
	⑦ 農林水産業における災害の防止等
3 販路拡大・輸出拡大	① 国内市場のニーズに対応した農林水産物の販売対策と利用促進
	② 「攻めの農林水産業」の実現に向けた輸出拡大

関連のあるSDGsのゴール



1 人づくり・地域づくりの強化

》》》》 10年後の将来像

- 鹿児島の農林水産業の振興を支える人材が育ち、誇りと将来の展望を持って従事しています。
- 農林水産業者のみならず、地域内外の多様な主体が協働し、農林水産業の生産条件の整備、就業機会の増大、生活環境の整備等に向けた取組が展開され、豊かで住みよい農山漁村が形成されています。

1 現状・課題

- 本県の基幹産業である農林水産業を持続的に発展させていくためには、効率的かつ安定的な経営の実現を目指す担い手や地域の担い手となることが期待される意欲ある新規就業者を確保・育成するとともに、農業法人や集落営農^{※1}など、多様な形態の担い手を確保する必要があります。

その際、経営規模や家族・法人など経営形態の別にかかわらず、経営発展の段階や、離島を含む中山間地域等の地理的条件、生産品目の特性などに応じ、経営改善を目指す農林水産業者を幅広く担い手として育成・支援する必要があります。

- 経営規模の拡大、生産コストの削減及び省力化、労働力確保等を図り、担い手の経営発展を支援する必要があります。
- 経済や生産の基盤である農山漁村の維持・発展を実現するためには、農林水産業者等の地域住民にとって住みよく、都市住民に対しても潤いのある豊かな生活環境を提供する快適で魅力ある農山漁村づくりと離島を含む中山間地域等の活性化を図る必要があります。

2 施策の基本方向

① 農林水産業を支える人材の確保・育成

- 認定農業者制度^{※2}を推進するとともに、地域における継続した話合いにより地域の中心となる経営体に位置付けられた担い手に対して、各種施策を集中的・重点的に実施します。
- 新技術の普及、経営診断などの個別支援活動の実施、ロボット技術、ICT等の先端技術を活用したスマート農業の導入・普及を進め、担い手の経営発展を支援します。
- 新規就農相談所等での県内外における就農・就業相談、農業高等学校及び農業大学校での教育・研修、農業法人と就業希望者とのマッチングなど、就農・就業促進に向けた取組を一体的に推進します。

※1…集落営農：集落を単位として、農業生産過程の全部又は一部について共同で取り組む組織。

※2…認定農業者制度：農業者が市町村の農業経営基盤強化促進基本構想に示された農業経営の目標に向けて、自らの創意工夫に基づき、経営の改善を進めようとする計画を市町村等が認定し、これらの認定を受けた農業者に対して重点的に支援措置を講じようとするもの。

- 戦略的な経営を実践する農業法人を育成するとともに、農業経営に関心のある企業の参入を促進します。
- 意欲ある女性や高齢者が農業経営などに積極的に参画できる環境づくりや、研修会等を通じた、地域農業を担う女性リーダーを育成します。
- 市町村等の関係機関・団体と連携し、地域の農業者の集落営農への参加促進や農作業受託組織^{※1}による効率的な受委託の仕組みの構築により、それらの組織化・法人化や法人化した集落営農の経営の維持・発展に向けた取組を促進します。
- 地域の農業を支える人材を確保するため、農業労働力支援センターによる相談活動や、農福連携の推進、外国人材の円滑な受入に向けた環境整備など、多様な人材の確保に向けた取組を推進します。
- 森林・林業に関する魅力の発信に努めるとともに、就業相談窓口の設置や基礎的な技能講習、能力に応じた段階的な技能実習等により、新規就業者や現場技能者の確保・育成を図ります。
- 安定した経営基盤の確保等を通じて林業事業者の労働環境の改善を図り、林業就業者の定着化を促進します。
- 地域の林業を支える人材を確保するため、建設業等異業種との連携や林福連携など、多様な担い手の活用に向けた取組を促進します。
- 特用林産物の生産基盤の整備支援や生産に必要な技術研修等により、新規生産者や後継者の確保・育成を図ります。
- 新規就業者や中核的な漁業者の育成など後継者対策を推進し、本県水産業を支える担い手の確保・育成・定着を図ります。
- 地域の水産業を支える人材を確保するため、女性や高齢者の参画のほか、水福連携や外国人材の活用など、多様な担い手の活用を促進します。

② 農山漁村の活性化

- 大学、NPO法人、企業、農業協同組合など多様な主体と農村集落とが連携して取り組む農村づくりを推進します。
- 都市住民の田園回帰や半農半X（農業と他の仕事を組み合わせた働き方）の機運の高まりを踏まえ、グリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムなど都市と農山漁村の交流の受入体制の充実・強化や農泊などを持続的なビジネスとして実施できる体制を持つ地域の創出を図ります。
- 二地域居住（デュアルライフ）の機運の高まりを踏まえ、大都市圏等からのUJ1ターン等による新規就農に対応し、地域での受入体制の整備並びにその技術及び能力の活用を推進します。
- 集落内外の組織や非農家の住民と協力し、活動組織の広域化や人材確保等を図り、地域資源の共同保全活動等や離島を含む中山間地域等における農業生産活動の支援を行う日本型直接支払制度^{※2}の活用を推進し、農業・農村の有する多面的機能の十分な発揮を図ります。

※1…農作業受託組織：複数の農家が農作業の一部を受託し、一定の受託料を受受している組織。

※2…日本型直接支払制度：農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るために行う地域共同の保全活動や農業生産活動の継続、自然環境の保全に資する農業生産活動を支援する制度で、2014年度に創設、法制化。多面的機能支払、中山間地域等直接支払、環境保全型農業直接支払の3支払から構成。

- 離島を含む中山間地域等の特性を生かした複合経営や6次産業化、集落営農の組織化・法人化等の多様な農業経営を推進します。
- 離島を含む中山間地域等の特色を生かした農業生産基盤整備を推進し、生産性の向上を図ります。また、集落排水施設等の生活環境の整備を進めます。
- 地域特性を生かした生産性や付加価値の高い特用林産物の産地づくりを進めることで、山村地域の活性化を図ります。
- 水産業・漁業集落が有する藻場・干潟・サンゴ礁の保全などの多面的機能の発揮を促進するとともに、漁村文化や地場水産物などの漁村地域が持つ魅力や価値の情報を発信し、収入機会の増大等を図る取組を促進します。
- 漁港背後の集落等における生活環境や就労環境の改善を促進することにより、安全で住みよい漁村づくりを図ります。

農産物販売金額 1 億円以上の経営体の推移【県】

区分		2010年	2015年	2020年
経営体数		47,382	39,222	29,717
	うち 1 億円以上	327	420	413

資料：農林水産省「農林業センサス」

経営耕地面積 10ha 以上の経営体の推移【県】

区分		2010年	2015年	2020年
経営体数		47,382	39,222	29,717
	うち 10ha 以上	759	959	1,112

資料：農林水産省「農林業センサス」



県立農業大学校プロジェクト・意見発表会の様子



鹿児島きこり塾 伐採現場視察の様子



技能実習の様子（鯉節加工業）



グリーン・ツーリズムの様子

2 生産・加工体制の強化，付加価値の向上

》》》》 10年後の将来像

- 鹿児島黒牛，かごしま黒豚，かごしま茶などの県産農畜産物，養殖ブリ，養殖カンパチなどの特産魚，スギ・ヒノキなどの県産材，たけのこやしいたけ，枝物などの特用林産物が，県内各地で生産され，農林水産物の加工など6次産業化等の取組による付加価値の向上が図られています。
- ロボット技術，ICTなどの先端技術を活用した効率的で生産性の高いスマート農林水産業^{※1}が展開されています。
- これらの取組により，農林水産業者の所得が向上し，後継者の確保につながる好循環が生まれています。

1 現状・課題

- 農林水産業は，本県の地域経済を支える基幹産業であり，南北600キロメートルにわたる広大な県土や海域と温暖な気候を生かした農林水産業の振興を図る必要があります。
- 食の安心・安全や環境保全に対する関心の高まりなどに対応するため，総合的病害虫・雑草管理^{※2}（IPM）や有機農業など，環境に配慮した技術の普及・拡大を図る必要があります。
- 農業生産力の維持向上を図っていくためには，担い手への農地の集積・集約や荒廃農地の発生防止・解消により優良農地を確保するとともに，農地の効率的な利用を推進する必要があります。
- 効率的かつ安定的な農業経営の育成や農業生産性の向上を図るためには，良好な営農条件を備えた農地や農業用水を確保し，これらの有効利用を図る必要があります。
- 経営規模の拡大，生産コストの削減及び省力化等を図るため，ロボット技術，ICTなどの先端技術を活用したスマート農林水産業の導入・普及を進めることが重要です。
- 農林水産業と関連産業が一体となって安定的な成長発展を図るためには，6次産業化等を推進することにより，高い付加価値を創出する必要があります。
- 本県は，地理的・自然的特徴から病害虫等が発生・侵入しやすい条件の下にあり，安定的な生産を確保するためには，農林水産物の防疫対策を適切に行っていく必要があります。
- 本県は台風の襲来や干害の発生が多いことに加え，シラスなどの特殊土壌を広く有していることなどから，安定した農林水産業経営を実現するためには，災害の防止に向けた適切な対策を講じる必要があります。
- 災害を被った農林水産業者の経営を支援するため，共済制度や収入保険制度への加入を

※1…スマート農林水産業：ロボット技術やICTなどの先端技術を活用して省力化・高品質生産の実現や，安全性の向上を図る新たな農林水産業。

※2…総合的病害虫・雑草管理：利用可能な全ての防除技術（耕種の防除，物理的防除，生物的防除，化学的防除）の経済性を考慮しつつ，総合的に講じることで，病害虫・雑草の発生を抑える技術。

促進するとともに、野生鳥獣・赤潮等の被害防止に向けた対策を講じる必要があります。

- 桜島の降灰等による農作物及び特用林産物の被害は、県本土全域で発生し、農林業振興を図る上で大きな障害となっています。
- 森林資源の充実や木材需要の増加を背景に、本県の木材生産量は増加傾向となっていますが、林業・木材産業が安定的に成長できるよう、木材生産・流通の更なる効率化や木材産業の競争力の強化を図る必要があります。
- 木材生産量の増加に伴い、皆伐面積が増加している一方で、再造林率は4割から5割程度で推移していることから、「かごしまみんなの森条例」も踏まえ、「植える→育てる→使う→植える」というサイクルの中で持続的に森林資源を循環利用する体制を構築し、森林の多面的機能を発揮させることが必要となっています。
- 水産資源の状況の悪化、漁業生産量の減少、燃油価格の変動による漁業経営の不安定化や就業者の減少・高齢化など厳しい状況の中、持続的な水産業振興を図るため、水産資源の適切な管理、スマート水産業の導入・普及による生産性の向上、水産物の特性に応じた付加価値の向上を図る必要があります。

2

施策の基本方向

① 本県の特性を生かした農畜産業の生産体制づくり

- 畜舎等の整備による規模拡大や増頭対策等の畜産経営への支援、スマート畜産技術の導入促進、農作業支援組織の育成などによる生産基盤の強化を図り、全国有数の畜産県として更なる発展を図ります。
- 大規模畑地かんがいなどを生かした野菜や温暖な地域特性を生かした果樹・花きの生産振興を図ります。また、地場産業を支える原料用さつまいもやさとうきびなどの生産振興を図ります。
- 荒茶生産量・産出額ともに日本一を目指して、有機茶や抹茶、紅茶など多種多様な茶づくりや、輸出に向けた有機栽培茶の生産を推進します。
- 需要に応じた米生産や水田を活用した国産飼料及び野菜の生産拡大など、水田フル活用の取組を推進します。
- 良質堆肥の施用による健全な土づくりや、総合的病害虫・雑草管理（IPM）及び有機農業の技術確立・普及や有機JAS認証^{※1}の取得支援による環境との調和に配慮した農業を推進します。
- 農地中間管理事業^{※2}の活用による担い手への農地の集積・集約の加速化を図るとともに、荒廃農地の発生防止・解消を促進します。
- 大規模畑地かんがい施設などの生産基盤の整備や土地改良施設の長寿命化を推進するとともに、畑かん営農ビジョン^{※3}に基づき、生産性や収益力の高い農業の実現を推進します。
- 安心・安全で品質の良い農畜産物を計画的・安定的に供給できるブランド産地づくり等を推進します。

※1…有機JAS認証：JAS規格制度の一つで、農業や化学肥料などの化学物質に頼らないで、自然界の力で生産された農産物、加工食品、飼料及び畜産物に付けられる認証。

※2…農地中間管理事業：農地中間管理機構が、農地の所有者から農地を借受け、担い手がまとまりのある形で農地を利用できるように配慮して貸付ける制度。

※3…畑かん営農ビジョン：各地域の営農推進協議会等が策定する、水利用による営農の基本目標や将来の営農活動の方向性を示したビジョン。

② 県産材の供給体制強化と特用林産物の産地づくり

- 森林施業の集約化，林道等の路網整備，高性能林業機械の導入，低コストで効率的な作業システムの普及・定着，木材の生産現場から製材工場等への直送やICT等の技術を活用した生産・流通の合理化等を促進し，林業の生産性の向上，県産材の安定供給体制の構築を図ります。
- 加工流通施設の整備や品質・性能の確かなJAS製材品等の生産体制の整備により，需要者のニーズに対応したかごしま材を低コストで安定的・効率的に供給できる体制づくりを推進し，県外産製材品等に対する競争力の強化を図ります。
- 適切な間伐を推進するとともに，スギ・ヒノキ等の適地においては，伐採跡地の再造林と計画的な保育を推進するなど，人工林資源の循環利用の定着化を図ります。
- 天然広葉樹林においては，有用樹^{※1}の育成を図るための適切な整備を推進します。
- しいたけや枝物等の安定的かつ効率的な生産体制及び集出荷体制の整備，消費者ニーズに対応した優良品種の生産促進等を図り，特用林産物の産地づくりを推進します。
- 豊富な竹林資源や温暖な気候など，地域特性を生かした「早掘りたけのこ」等の産地づくりを一層推進するとともに，路網の開設や運搬機械の導入など，竹を原料としたセルローズナノファイバー等の需要増に対応できる竹材の供給体制の整備を促進します。

③ 持続的・安定的な漁業生産

- 持続的・安定的な漁業生産を実現するために，TAC制度^{※2}等による資源管理の充実，マダイ，ヒラメ等有用種苗の放流及び生産基盤となる漁港・漁場の整備等を推進します。
- 温暖で，養殖に適した海域が多い恵まれた特性を生かし，世界市場を見据えた養殖体制を確立するため，輸出に有利な人工種苗の導入などによる養殖魚の品質・量の確保を図ります。また，安心・安全等に対応する国際的な認証の取得・HACCP対応型加工施設や衛生管理型市場^{※3}等の整備を推進します。
- 漁場環境モニタリング調査の実施や監視体制の充実，赤潮発生メカニズムの解明と発生予察技術等の開発に取り組みます。
- 多様化する消費者ニーズや流通形態に対応した付加価値の高い商品づくりへの取組を支援します。

④ 6次産業化の推進

- 県産農林水産物の付加価値を高めるため，県試験研究機関を活用した加工や鮮度保持技術の研究・開発などを進め，6次産業化に取り組む農林水産業者等を支援します。

⑤ ロボット技術，ICT等を活用したスマート農林水産業への挑戦

- 大学や民間企業等とも連携し，ロボット技術，ICT等の先端技術などを活用した超省力・高品質生産を実現する次世代の農林水産技術等の研究・開発を推進します。
- 稼げる農林水産業の実現に向け，ロボット技術，ICT等の先端技術などを活用したスマート農林水産業の普及による生産性の向上に向けた取組を推進します。

※1…有用樹：建築用材や家具用材，木工用材などに活用可能な利用価値の高い樹木。

※2…TAC制度：漁獲量が多く経済的価値が高い魚種などに年間の漁獲可能量を定め，水産資源の適切な保存・管理を行うための制度。

※3…衛生管理型市場：安全で安心な水産物を消費者へ提供するため，衛生管理に取り組む環境が整備された市場。

6 動植物の防疫対策

- 農作物への影響が大きいサツマイモ基腐病^{※1}などについて、適時・的確な発生予察情報を提供するとともに、国の支援策を活用しながら、防除対策の推進により、まん延を防止します。
- 重要病害虫であるミカンコミバエなどについて、未発生地域における侵入警戒調査及び啓発活動に取り組むとともに、万一、侵入を確認した場合には、まん延防止に向けた防除対策を実施します。
- 豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等については、消毒や野生動物の侵入防止等の飼養衛生管理基準の遵守の徹底を図るなど、侵入防止対策を強化します。
- 牛伝染性リンパ腫^{※2}については、感染牛の摘発・淘汰、衛生害虫対策など、感染拡大防止を強化します。
- 伝染性疾病の予防や特定疾病のまん延防止などの魚病・防疫対策を実施します。

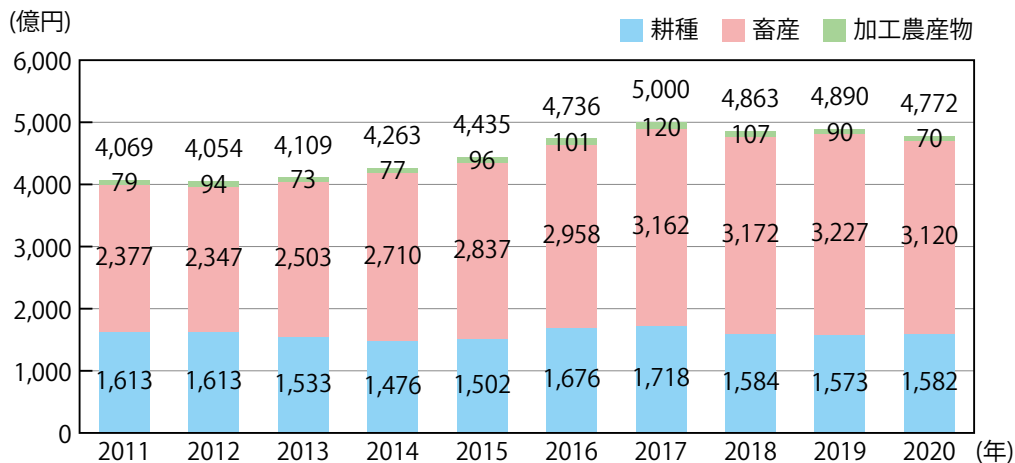
7 農林水産業における災害の防止等

- 国の「国土強靱化基本計画」に基づき、農業用ため池、排水施設及び保全施設の整備等のハード対策とハザードマップの策定等のソフト対策を併せて行い、一体的な農地・農村の防災・減災対策を推進するとともに、漁港岸壁の耐震化や海岸保全施設の整備等のハード対策と漁港BCPの策定等のソフト対策を併せて行い、漁港・漁村の防災・減災対策を推進します。
- 農林水産業者の経営安定対策を着実に実施し、万一に備え共済制度や収入保険制度への加入を促進するとともに、災害等の発生時には、制度資金の円滑な融通や既貸付金の償還条件の緩和促進など、必要な支援について、スピード感をもって対応します。
- 桜島の火山活動に伴う降灰対策については、整備計画に基づき、被覆施設・洗浄施設等の整備を推進し、農作物及び特用林産物の被害の防止・軽減を図ります。
- 野生鳥獣による農作物被害の防止等については、市町村等と連携しながら、「寄せ付けない」、「侵入を防止する」、「個体数を減らす」の3つの取組を総合的かつ一体的に進めるとともに、ジビエの有効活用の取組を促進します。

※1…サツマイモ基腐病：県内では2018年に初めて発生が確認されたさつまいもの病害で、病原菌は糸状菌（カビの一種）。①地際の茎が黒変し、茎葉は黄色や紫色に変色して、次第にしおれる。②茎葉が繁茂する時期には、つるが黒色から黒褐色に変色し、地上部が枯死する。③発病株のいもは、主になり首側から腐敗するなどの症状を呈する。

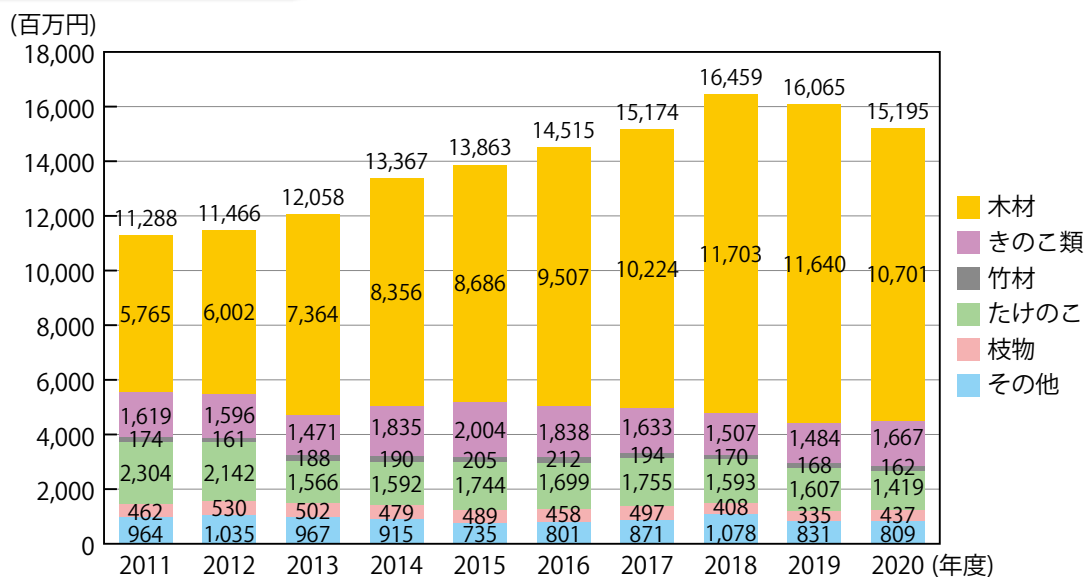
※2…牛伝染性リンパ腫：体表リンパ節及び体腔内リンパ節の腫大等の異常を示す疾病。

農業産出額の推移【県】



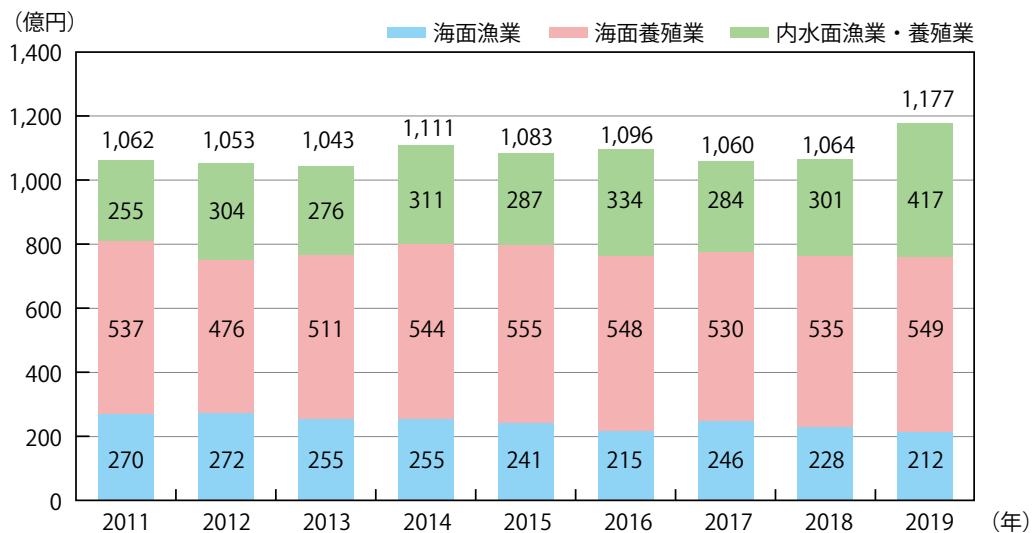
資料：県農政部

林産物生産額の推移【県】



※ 2014年度から木材の生産額に燃料材（発電用）を含む
資料：県環境林務部

漁業産出額の推移【県】



資料：県商工労働水産部

全国和牛能力共進会^{※1}



竹林の活用



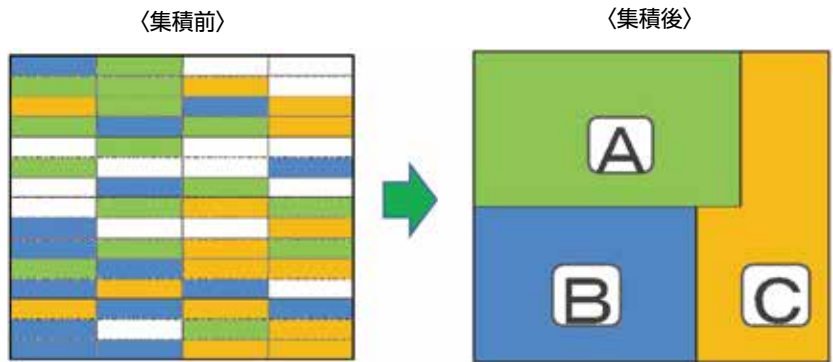
衛生管理型市場



農地の集積・集約化



農地集積の話し合いの様子

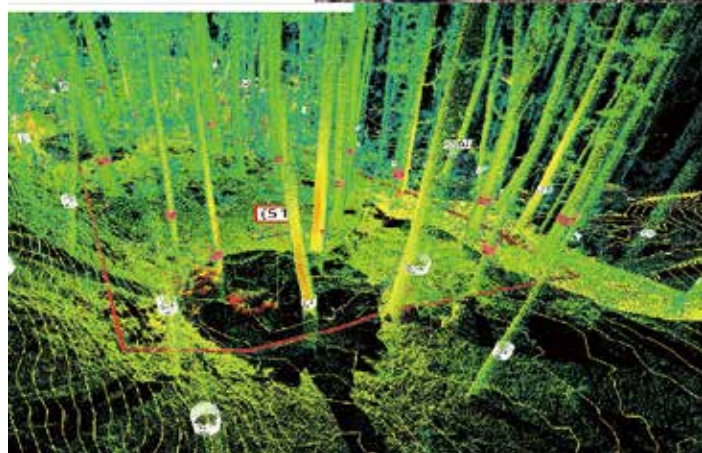


担い手への農地の集積・集約化（イメージ）

県内におけるスマート農林水産業の事例



哺乳ロボットによる授乳



地上レーザー計測による森林資源調査



海況予測情報を活用した操業

※1…全国和牛能力共進会：全国の優秀な和牛を一堂に集め、改良の成果を競うため、5年に一度開催される和牛の品評会。審査は牛の姿・形を審査する「種牛の部」と肥育牛の肉質等を審査する「肉牛の部」で実施。

3 販路拡大・輸出拡大

》》》》 10年後の将来像

- 鹿児島黒牛，かごしま黒豚，かごしま茶などの県産農畜産物，養殖ブリ，養殖カンパチなどの特産魚，スギ・ヒノキなどの県産材，たけのこやしいたけ，枝物などの特用林産物の品質やブランド力が向上し，国内外で高く評価され，広く流通しています。
- アジアや欧米などに向けて「かごしま」の農林水産物が安定的に輸出されており，農林水産業者の経営が安定し，所得が向上しています。
- 全ての県民が，本県の新鮮で安心・安全な食材を積極的に取り入れた健康で豊かな食生活を実現しています。

1 現状・課題

- 消費者ニーズに対応したブランド戦略を推進し，かごしまブランド^{※1}に対する消費者の認知度や信頼度を高めるとともに，市場関係者や消費者等に県産の良さを訴え，有利販売につながる取組を展開する必要があります。
- ライフスタイルや食に関する価値観が多様化する中，本県ならではの食の魅力を再発見し，多彩な食文化と豊富な農林水産物を生かした食育・地産地消の取組を推進するとともに，国内での一層の販売促進活動やPR活動を推進する必要があります。
- 急速な経済成長を続けるアジア諸国など海外の需要を取り込むため，新たな市場を視野に入れたマーケットイン^{※2}の発想による付加価値の創出や販路の開拓など，県産農林水産物等の輸出をはじめとする事業展開を促進する必要があります。
- 森林資源の充実や木材需要の増加を背景に，本県の木材生産量は増加傾向となっていますが，長期的には人口減少に伴い，住宅向けの需要の減少が見込まれていることから，県産材の利用拡大と新たな木材需要の創出を図る必要があります。

2 施策の基本方向

① 国内市場のニーズに対応した農林水産物の販売対策と利用促進

- 「かごしまブランド」，「かごしまのさかな」，「かごしま材」などの産品をはじめとする県産農林水産物について，県内外での各種フェアの開催，かごしまの食ウェブサイト^{※3}を活用した県産農林水産物の紹介，黒牛・黒豚の販売指定店の拡大など，継続的な販売促進活動を展開します。

※1…かごしまブランド：県では，農業経営が安定し，かつ希望ある営農活動が持続的に可能となるよう，生産者，関係機関・団体が一体となって，安心・安全で品質の良い農畜産物を計画的・安定的に供給できる産地づくりと，県産農畜産物のイメージアップによる販路拡大を一体的に進めている。この取組の中で，県を代表する農畜産物を「かごしまブランド産品」として指定し，当該産品を生産・出荷する一定の基準を満たした団体を「かごしまブランド団体」として認定している。

※2…マーケットイン：市場や購買者という買い手の立場に立って，買い手が必要とするものを提供していかうとすること。

※3…かごしまの食ウェブサイト：県産農林水産物や加工品のウェブカタログ，食に関するイベントなど，かごしまの食に関する情報を消費者や実需者等に広く紹介するウェブサイト。URL <https://kagoshima-shoku.com/>

- 食と農林水産業に関する体験機会の提供や農林水産業者と消費者の交流等による県産農林水産物への理解促進等の食育の推進を図るとともに、地産地消を応援する取組主体の確保・活動支援等により県産農林水産物の活用を促進します。
- G A P（農業生産工程管理）の取組やM E L^{※1}（マリンエコラベル）等国際認証取得の拡大、地理的表示保護制度（G I）^{※2}の活用を促進し、県産農林水産物の更なるブランド力の向上を図ります。
- 非住宅建築物等の木造化・木質化、かごしま材を積極的に使用した家づくり、C L T^{※3}やツーバイフォー工法^{※4}部材、J A S 製材品の普及と利用促進などにより、県産材の利用拡大と新たな木材需要の創出を図ります。
- 家庭、学校及び地域における魚食普及を推進し、県産水産物の消費・販路拡大を図ります。

② 「攻めの農林水産業」の実現に向けた輸出拡大

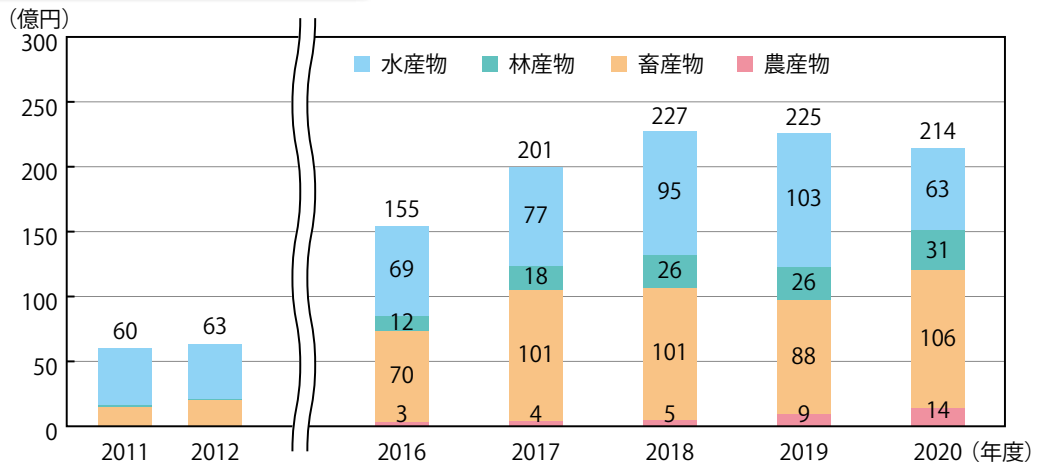
- T P P 1 1，日E U・E P A，日米貿易協定の発効など、国際化の急速な進展を踏まえつつ、「鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン^{※5}」に基づき、アジア諸国、米国、E Uなどの重点国・地域に対して、県産農林水産物等の更なる輸出拡大を図るため、「つくる」、「あつめる・はこぶ」、「うる」の3つの視点から、牛肉、豚肉、お茶、さつまいも、養殖ブリ、木材など重点品目の生産体制や販売力の強化に戦略的に取り組みます。
- 畜産物については、生産者や輸出事業者等がコンソーシアムを設立して実施する販促プロモーション等への支援など輸出先国での販路拡大に取り組みます。
- お茶については、有機茶の生産拡大や品質向上、有機J A S 認証取得の推進、てん茶・抹茶加工施設の整備促進、海外バイヤーを対象とした、県内産地視察や商談会の開催、海外商談会への出展支援に取り組みます。

海外で需要が高まっている有機茶や抹茶の輸出拡大を図るため、色・味などの品質評価が高く、将来の輸出拡大に期待される新品種「せいめい」の産地化に取り組みます。

- 青果物については、輸出先国の規制やニーズに対応した輸出向け産地育成の推進や、県内産地と連携して販路開拓に取り組む県内輸出商社の営業活動への支援、海外における鹿児島フェアの開催、国際水準G A Pの認証取得等の支援、県内港湾からの青果物の持続的な輸出スキーム構築等に取り組みます。
- 木材については、輸出先国のニーズを把握するための市場調査、県内製材所等と海外バイヤー等とのマッチングや合同商談会の開催等により、付加価値の高いかごしま材の輸出拡大に取り組みます。
- 水産物については、海外における健康志向の高まりや日本食の普及などによる本県水産物への需要に対応するため、輸出先国のニーズに対応した施設整備や輸出商品の開発など、関係事業者等が一体となり本県水産物の輸出拡大に取り組みます。

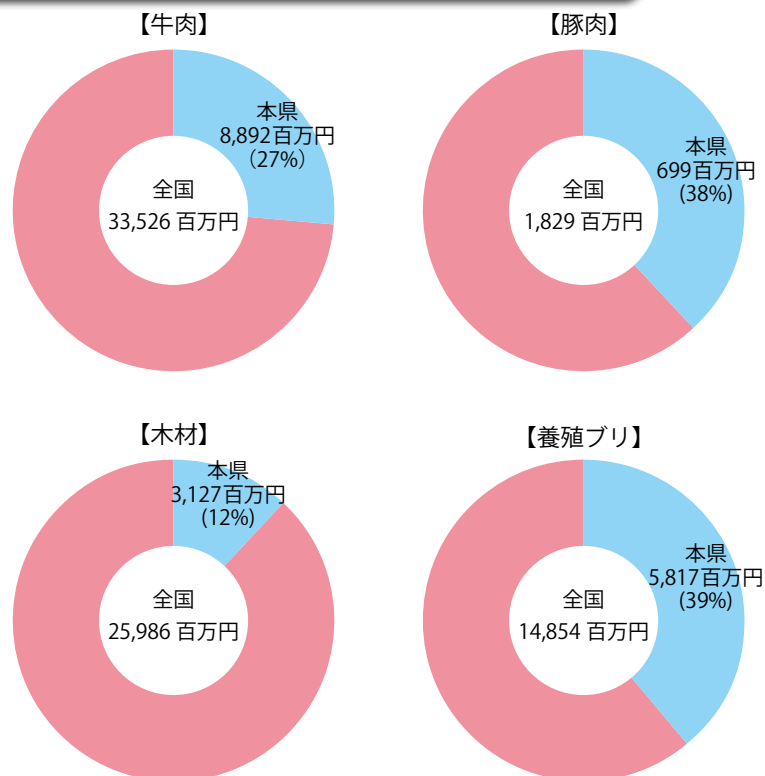
※1…M E L：水産資源の持続的利用と環境に配慮した管理を積極的に行っている漁業、養殖の生産者と、そのような生産者からの水産物を加工・流通している事業者を認証する水産エコラベル。
 ※2…地理的表示保護制度（G I）：地域には長年培われた伝統的な生産方法や気候・風土・土壌などの生産地の特性が、品質などの特性に結びついている産品が多く存在しており、これら産品の名称（地理的表示）を知的財産として登録し、保護する制度。
 ※3…C L T：ひき板を繊維方向が直交するように積層接着した重厚なパネル。
 ※4…ツーバイフォー工法：木造の枠組材に構造用合板等の面材を緊結して壁と床を作る建築工法。枠組壁工法。
 ※5…鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン：2018年3月に鹿児島県が策定した、2025年度の県産農林水産物の輸出額を2016年度の2倍となる約300億円まで拡大することを目標として、輸出重点品目、輸出重点国・地域を明確にした上で、戦略的な取組を展開していくことを示す計画。

農林水産物の輸出額の推移【県】



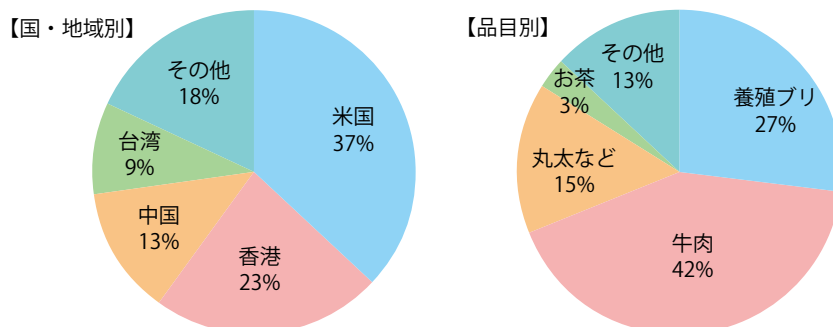
資料：県環境林務部，商工労働水産部，農政部

日本の輸出額に占める県産農林水産物の輸出額（2020年度）



※ 国の輸出額は、財務省貿易統計をもとに算出
資料：県環境林務部，商工労働水産部，農政部

県産農林水産物の国・地域別・品目別の輸出割合（2020年度）



資料：県環境林務部，商工労働水産部，農政部

かごしまブランド産品

※写真は一例



かごしまのさつまいも



鹿兒島黒牛



かごしまのそらまめ



かごしま黒豚



かごしまのマンゴー



かごしま茶



かごしまブランド

「かごしまブランド産品」…本県を代表する次の要件のいずれかに該当する農畜産物を指定
 ・生産量が全国トップクラスであること
 ・品質の評価が卸売市場関係者等から高いこと
 ・品種が県の育成種などオリジナルであること
 ・G I 産品など、品質等の特性が地域と結びついていること

かごしまのさかな



養殖ブリ



養殖カンパチ



「かごしまのさかな」…本県で生産された養殖ブリ・養殖カンパチについて、品質等が優れ市場や消費者等のニーズに応えられる等、県内生産者のモデルとなるような優れたものを、漁協等からの申請に基づき「かごしまのさかなづくり推進協議会」が審査・認定するもの。

かごしま木の家づくり



かごしま木の家

食育・地産地消の取組



県産食材メニューコンテストで発表する高校生

Topic | かがしまの農林水産物の輸出促進

〈株式会社パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス (PPIH) との県産品の海外販路拡大等に関する連携協定締結〉

2020年10月12日、県はPPIHと県産品の海外販路拡大を目的とした連携協定を締結しました。

国内で「ドン・キホーテ」を運営している同社は、本県産さつまいもを主力商品として、東南アジアを中心に日本産の品質にこだわった商品を提供する小売店「DON DON DONKI」を展開し、シンガポールや香港などで急速に事業拡大をしています。

PPIHが取り扱う県産農畜水産物の輸出額は、連携締結後の1年間で約2.3億円伸び、総額約7.3億円となりました。

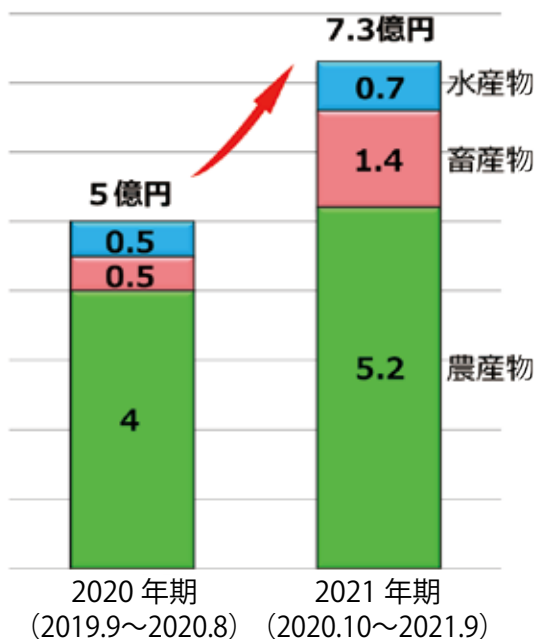
今後も、同社と連携した定期的な海外フェアや商談会の開催などを通じて、県産農畜水産物の更なる輸出拡大に向けた取組を進めていきます。



締結式の様子

《連携項目》

- 鹿児島県産品の海外への販路拡大
- フェアを通じた「KAGOSHIMA」の認知度向上
- 鹿児島県内の港湾等からの輸出促進
- その他、鹿児島県の地域振興に資すること



PPIH取り扱い県産農畜水産物の輸出額



鹿児島フェア (シンガポール)



志布志港から青果物を混載して輸出

第4章

11

観光の「稼ぐ力」の向上

施策体系

中項目	小項目
1 国内外における戦略的なPRの展開	① 多彩な魅力を活用したPRの展開
	② Web等を活用したプロモーションの展開
2 魅力ある癒やしの観光地の形成	① 地域の観光資源の活用及び創出等
	② 観光関係施設等の整備
	③ 観光地における環境の保全
3 戦略的な誘客の展開	① 観光客の来訪の促進等
	② 外国人観光客の来訪の促進等
	③ スポーツキャンプ等の誘致
	④ マーケティングに基づく効果的な誘客
4 オール鹿兒島でのおもてなしの推進	① 全ての観光客がストレスなく快適に観光できる環境の整備
	② 観光を担う組織・人材の育成

関連のあるSDGsのゴール



1 国内外における戦略的なP Rの展開

》》》》 10年後の将来像

- 国内においては、鹿児島島の多彩な魅力が広く認知され、本県の一流の農林水産物や観光地としてのブランド力が向上し、交流人口が拡大しています。
- 海外においては、直行便が就航している国や地域を中心に、本県の認知度が更に向上し、インバウンドの増加や県産品の輸出拡大が図られています。

1 現状・課題

- 本県は、温暖な気候、安心・安全でおいしい食材、豊富な温泉資源、豊かな自然など、国内外との交流を促進するための資源に恵まれています。
- 本県が国内外に誇る県産品や観光資源については、知事トップセールスや各種P R活動を通じて、販路拡大・観光客誘致に取り組んでいますが、更なる認知度の向上が課題となっています。
- P R動画の制作・放映や各種メディアの活用等により、本県として様々なP Rに努めており、新鹿児島P R戦略等に基づき、引き続き効果的なP Rを進めていく必要があります。

2 施策の基本方向

① 多彩な魅力を活用したP Rの展開

- 本県固有の食、自然、環境等多彩な魅力の掘り起こしを行うとともに、様々な切り口で国内外に情報発信することで本県のイメージアップにつなげます。

② Web等を活用したプロモーションの展開

- 国内外における鹿児島島の認知度向上を図るため、インターネットやSNS等を活用して、P R動画等を含めた情報発信を行い、効果的かつ持続的なP Rを展開します。
- 特に、海外向けには、海外広報官等を活用し、外国人の目線に沿った情報発信を行います。

県P R動画イメージ



奄美大島のマングローブ



霧島神宮

2 魅力ある癒やしの観光地の形成

》》》》 10年後の将来像

- 地域ごとの特性を生かした街並み景観や沿道修景などが整備されるとともに、地域の特色ある観光資源を生かした着地型観光の促進や環境の保全などが図られ、持続的で競争力の高い、魅力ある癒やしの観光地が形成されています。

1 現状・課題

- 価値観の多様化や個人のライフスタイルの変化とともに、本物志向や知的好奇心を満たす観光、地域の人や生活・文化に触れながら、五感で魅力を味わう体験型観光、個人の趣味・嗜好に応じたテーマ別観光、自然環境等への理解を深め、その保全について学ぶ観光など、観光の形態や目的はますます多様化しています。
- 更なる人口減少が進むことが見込まれる中で、観光振興による交流人口の拡大を図っていくためには、多様な観光ニーズに対応した着地型旅行商品などの観光メニューの拡充、新たな地域資源の発掘などとあわせ、デジタル技術と観光資源の融合等による新たな観光コンテンツやサービスを創出するなど、地域の主体的な取組を強化して、魅力ある観光地づくりを推進していく必要があります。
- 持続的かつ競争力の高い観光地づくりを実現していくためには、本県の魅力ある自然環境を体感したいと訪れる観光客のニーズを踏まえ、同時に、観光客の滞在・行動が環境に悪影響を及ぼさないよう、観光振興と環境保全の両立を図る必要があります。

2 施策の基本方向

① 地域の観光資源の活用及び創出等

- 世界遺産や錦江湾、桜島などの一流の景観、豊富な食材を生かし、長期滞在も可能な世界に通用するリゾート地の形成を図ります。
- 錦江湾や桜島の美しい景観を望む鹿児島港本港区エリアのまちづくりについて、グランドデザイン[※]の開発コンセプトも踏まえながら検討を進めます。
- 観光資源としてポテンシャルの高い県立自然公園等の自然環境を持続的に活用する利用施設の整備等やツアープログラムの開発を推進します。
- 地域の観光資源の魅力をつなぐ周遊型観光ルートの形成など、観光客の県内各地への周遊を促進します。
- 地域の観光資源の発掘や磨き上げに努め、自然や環境、サイクリング、健康・癒やしなどをテーマとするツーリズムや農山漁村の地域資源を生かした体験活動を提供するグリー

※1…グランドデザイン：2019年2月に県が策定した「鹿児島港本港区エリアまちづくりグランドデザイン」のこと。

ン・ツーリズム、ブルー・ツーリズム、デジタル技術と観光資源の融合等による新たな観光コンテンツやサービスの創出などのスマートツーリズムなどの取組を促進します。

- 地域資源の発掘や磨き上げを行うため、県民一人ひとりが鹿児島島の自然や文化に親しみ、郷土の豊かな魅力を知る機会となるマイクロツーリズム[※]を促進します。

② 観光関係施設等の整備

- 観光客の多様なニーズに対応した観光施設や宿泊施設の整備を促進します。
- 地域ごとの特性を生かした街並み景観や沿道修景などの整備を進めます。

③ 観光地における環境の保全

- 観光地における環境の保全を図り、豊かな自然環境と共生する持続可能な観光地づくりを推進します。



錦江湾と桜島



たまた箱温泉（指宿市）



甌大橋（薩摩川内市）



黒酢つぼ畑（霧島市）



曾木の滝（伊佐市）



東温泉（三島村）

※1…マイクロツーリズム：県内等、近隣地域内での観光。

Topic | 鹿児島県観光資源

【自然・景観】

～地球のエネルギーを感じる場所～



噴煙たなびく桜島，世界自然遺産の屋久島及び奄美大島・徳之島，霊峰と湖に彩られた霧島連山，白砂青松に縁どられた広大な吹上浜，樹齢日本一ともいわれる屋久島の縄文杉，薩摩半島と大隅半島をつなぐ紺碧の錦江湾など鹿児島にはバラエティに富んだ自然景観が満載。ダイナミックなエネルギーと自然が，時を忘れさせてくれます。

【食】

～四季折々の恵みは全身で味わう～



鹿児島は，四季を通じて自然の恵みに溢れています。太陽の光をたっぷり浴びて育つ野菜や果物，鹿児島黒牛（和牛日本一），かごしま黒豚，黒さつま鶏，黒酢や黒糖，本格焼酎など郷土の自然の中から生まれた食材は，世界からも注目されています。また，県内各地には独特の郷土料理も見られ，訪れる先々で新鮮な食体験を楽しむことができます。

【温泉】

～大自然からの恩恵で体を清め，浄化する～



硫黄の香り漂う森の中のお湯，溪流の音を聴きながらくつろぐお湯，目の前に大海原の開放感を味わいながら汗を流すお湯，海辺の砂の中で体の芯からデトックスする天然砂むし温泉など鹿児島は全国屈指の温泉王国。様々な泉質を楽しむことができるのも鹿児島県の温泉の特徴です。ミネラルがたっぷり溶け込んだ温泉水を上手に取り入れて，健康管理に役立てましょう。

【健康】

～あなたの心と体が目覚める場所，鹿児島～



桜島から昇る朝日の熱を感じるヨガ，マングローブの原生林を巡るカヌー，雄大な景色を楽しむサイクリングなど鹿児島ならではの，ひと味違うアクティビティ。自然には人を癒やす力があります。軽いストレッチや深呼吸をするだけで，心も体も伸びやかに目覚めはじめます。

3 戦略的な誘客の展開

》》》》 10年後の将来像

- マスメディア、インターネット、ソーシャルメディアなどの各種メディアの活用による効果的・戦略的な情報発信などにより、「KAGOSHIMA」の知名度が高まり、国内外から観光客が集まる観光地となっています。

1 現状・課題

- 本県観光のイメージの形成や向上のためには、本県の多彩な観光資源の魅力を発信する取組を統一性を持たせながら戦略的に展開していく必要があります。
- 個人の価値観が多様化する中で、団体旅行から個人旅行へのシフトが進み、個人の趣味・嗜好に応じて観光客のニーズも多様化しています。
- ビッグデータ[※]等の情報に基づき、国内外の観光客の嗜好をしっかりと捉えた戦略を構築し、効果的なプロモーションを行っていくことが必要です。
- 県本土と離島、薩摩半島と大隅半島又は離島間を結び、さらには県域を越えた広域観光ルートなどの定着・開発が求められています。また、海外からの誘客を促進する上では、九州全体で連携した取組も重要になっています。
- 我が国の人口減少が進む中で、交流人口の拡大が地域活力の強化にとって欠かせないことから、東アジア諸国に近接している本県の地理的優位性を生かし、成長を続けるアジアを中心に外国人観光客の来訪を促進するための誘致や、文化・慣習などの違いに配慮しながら、ニーズに対応したきめ細かな受入体制の整備を官民一体となって一層強化していくことが重要です。

2 施策の基本方向

① 観光客の来訪の促進等

- 鹿児島ならではの美しい自然景観、特色ある島々、個性ある歴史・文化、豊富な食材や温泉資源など、多彩な観光資源を生かし、国内外のメディア、旅行会社、航空会社等と連携した取組により、戦略的な誘客の展開を図ります。
- 「屋久島」及び「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の2つの世界自然遺産や、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の県内の構成資産など、遺産としての価値を維持しながら、遺産を活用した観光地づくりを進め、世界遺産の保全と地域の発展につながる「ヘリテージツーリズム」の構築に取り組みます。また、遺産の価値等について理解するためのガイド機能を持つ施設の整備等を通じた受入体制の充実を推進します。

※1…ビッグデータ：デジタル化の更なる進展やネットワークの高度化、関連機器の小型化・低コスト化によるIoTの進展により、インターネットやスマートフォン等を通じて得られる位置情報や行動履歴、消費傾向等に関する情報、また小型化したセンサー等から得られる膨大なデータ。

- 市町村や交通事業者等と連携した広域観光周遊ルートづくりなどにより、県内の周遊を促進します。
- 観光業界だけでなく、商工業者、農林水産業者、地域住民などを含む幅広い関係者が連携した「観光地域づくり」を推進するための組織づくりや人材育成等による体制整備を図ります。
- MICE*や教育旅行の誘致の促進を図るとともに、マイクロツーリズムやワーケーションなど、新たな観光旅行を開拓し、多様な観光交流を促進します。

② 外国人観光客の来訪の促進等

- 海外サポーター（県人会等）等を活用したPRや現地でのセールス、旅行エージェント（旅行者）・メディア等の招請等、ターゲットとする市場に応じた海外からの誘客促進に向けた取組を推進します。
- 多くの外国人観光客が直接鹿児島を訪れることができるよう、国際航空路線の拡充や国際チャーター便の就航促進に取り組みます。
- 富裕層をはじめ外国人観光客の来訪を促進するための受入環境の整備を推進するとともに、鹿児島と屋久島、奄美群島を結ぶ世界遺産クルーズなど、国際クルーズ船の誘致を促進し、地域の活性化を図ります。
- 鹿児島港については、マリンポートかごしまにおいて、大型化が進むクルーズ船への対応や受入環境の整備を行うとともに、臨港道路の整備を推進し、物流・人流の活性化を図ります。
- 九州観光推進機構や、九州・沖縄各県等と連携した広域的な取組の推進などにより、外国人観光客の来訪を促進します。

③ スポーツキャンプ等の誘致

- ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅等の充実した施設や、恵まれた気候・観光資源・自然環境等を生かしたスポーツ合宿・キャンプ等の誘致活動を推進し、スポーツを通じた交流人口の拡大や地域活性化を図ります。
- 県内プロスポーツチームの育成・支援とスポーツを通じた交流人口の拡大や地域活性化を図るため、関係機関・団体が一体となって、ホーム戦における集客・賑わいの創出やアウェイ戦における本県のPR等の活動を促進します。

④ マーケティングに基づく効果的な誘客

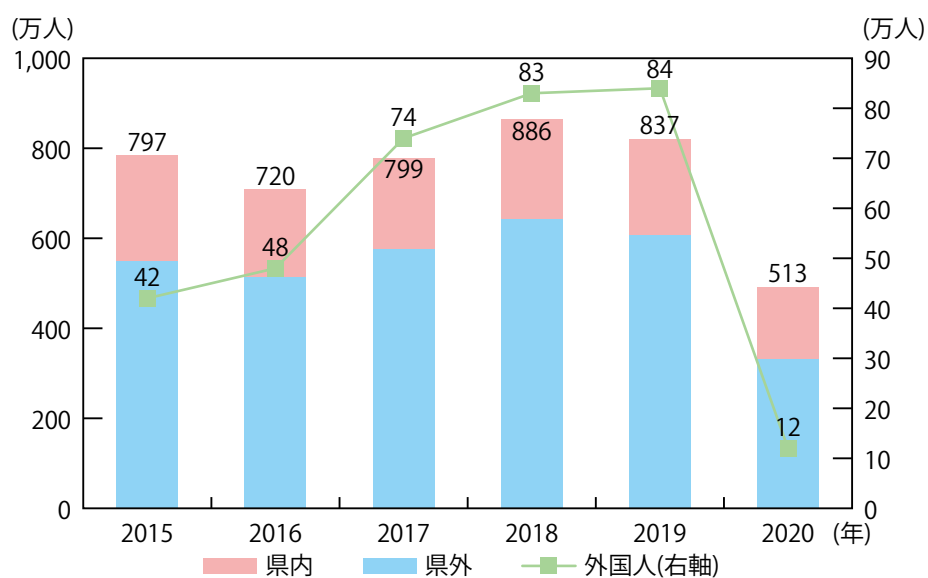
- 本県観光の動向や観光消費の実態、観光ニーズの把握・分析など、マーケティングの結果に基づいた、戦略的かつ効果的なプロモーション活動の展開により、本県の魅力を発信することで、国内外からの誘客促進を図ります。

*1…MICE：企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

クルーズ船寄港の様子

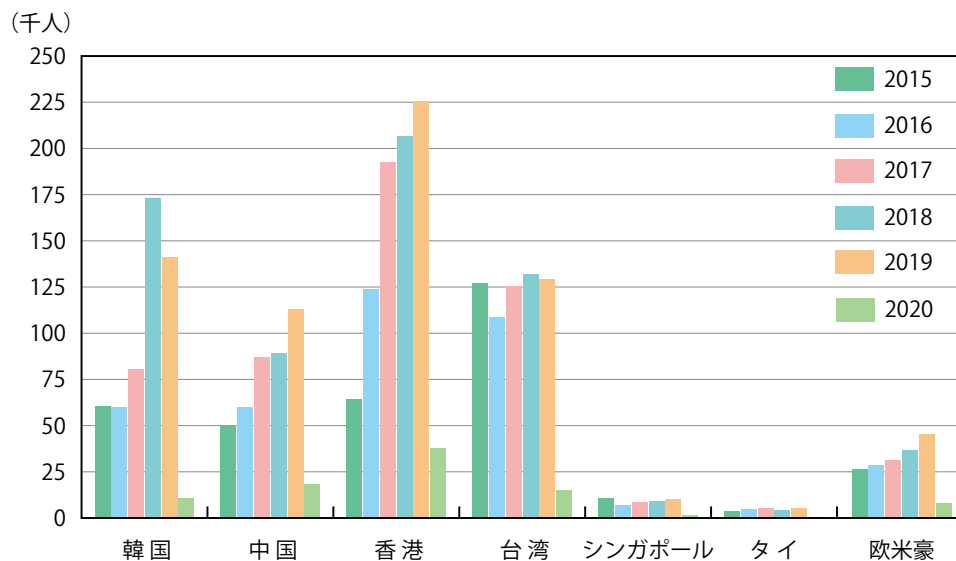


延べ宿泊者数の推移【県】



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」

主な国籍・地域別外国人延べ宿泊者数の推移【県】



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」
※従業員者数10人以上の施設が調査対象

Topic | 世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」

鹿児島県内の構成資産



旧集成館
(反射炉跡)



旧集成館
(旧鹿児島紡績所技師館 (異人館))



関吉の疎水溝



寺山炭窯跡

※2022年3月現在、災害復旧工事のため、立入禁止

「産業国家」日本の原点-日本の近代化は鹿児島から始まった

2015年7月に世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、幕末から明治時代にかけて、日本がわずか50年余りの短期間で、重工業分野において急速に産業化したプロセスを物語るもので、8県11市に分布する23の資産で構成されています。このうち、鹿児島県には「旧集成館」、「寺山炭窯跡」、「関吉の疎水溝」の3つの構成資産があり、いずれも薩摩藩主 島津斉彬が興した「集成館事業」に関連するものです。

斉彬は、仙巖園敷地の竹林を切り開いて反射炉の建設を始めました。そして、その周辺に溶鉱炉やガラス工場、蒸気機関の研究所などの施設をつくり、これらの工場群を「集成館」と名付けました。

「集成館事業」は、1858(安政5)年の斉彬の急死により一時縮小されますが、1863(文久3)年の薩英戦争で更なる近代化の必要性を感じた薩摩藩は、洋式機械や蒸気機関を購入し、イギリスとの間で、留学生の派遣や技術者の招へいを行い、積極的な技術の導入を進め、日本初の洋式紡績工場を稼働させるなど、様々な分野で、日本の近代化に大きく貢献しました。

「集成館事業」はまさしく我が国における産業革命の先駆けであり、関連する遺産群は日本近代化の源となった大事業の痕跡を未来に伝えるものです。

4 オール鹿児島でのおもてなしの推進

》》》》 10年後の将来像

- 観光客を温かく迎え入れるホスピタリティ（心のこもったおもてなし）の向上が図られ、本県を訪れる誰もが、安心・安全に快適な観光を満喫できる受入体制が充実するとともに、地域が主体となった持続可能な観光地域づくりが進められています。

1 現状・課題

- 全ての観光客が快適な観光を満喫し、再び訪れたいと感じられる観光地となるよう、受入環境の整備が必要です。
- 「観光立県かごしま」の実現に当たっては、ホテル・旅館従事者や通訳ガイドなど、観光を支える担い手の育成・確保が必要です。
- 県民一人ひとりが、郷土の自然環境、歴史・文化など鹿児島ならではの魅力を再認識し、「まごころ」のこもったおもてなしを県民総ぐるみで一層展開していくことが求められます。
- 地域が主体となった地域づくりをより一層活発化し、県民参加型の観光推進の気運を更に高めるためにも、地域づくりをリードする人材や組織を育成していく必要があります。

2 施策の基本方向

① 全ての観光客がストレスなく快適に観光できる環境の整備

- 高齢や障害等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく旅行に参加できるよう、観光関係施設等のバリアフリー化やユニバーサルツーリズム[※]の促進を図ります。
- 親切で分かりやすい案内標識や公衆無線LAN（無料Wi-Fi）等の整備促進、観光関連情報の多言語化やキャッシュレス決済の普及・啓発、温かく迎え入れるホスピタリティの向上など、受入体制の充実を図ります。

② 観光を担う組織・人材の育成

- 関係団体との連携を図りながら、鹿児島の魅力を伝えるガイドや通訳案内士など観光を担う人材や組織の育成を図ります。
- 観光業界だけでなく、商工業者、農林水産業者、地域住民などを含む幅広い関係者が連携した「観光地域づくり」を推進するための組織づくりや人材育成等による体制整備を図ります。
- 県民一人ひとりが鹿児島の自然や文化に親しみ、鹿児島ならではの魅力の再認識につなげるため、マイクロツーリズムを促進します。

※1…ユニバーサルツーリズム：すべての人が楽しめるよう創られ、高齢や障害等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行。